



平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年7月29日

上場会社名 株式会社三越伊勢丹ホールディングス 上場取引所 東・福
 コード番号 3099 URL <http://www.imhds.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 大西 洋
 問合せ先責任者 (役職名) 業務本部総務部コーポレートコミュニケーション担当 (氏名) 滝口 一雄 (TEL) 03-6205-6003
 四半期報告書提出予定日 平成28年8月1日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第1四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	294,646	△4.9	6,062	△47.7	7,339	△43.8	4,954	△43.5
28年3月期第1四半期	309,931	8.9	11,588	82.8	13,055	69.8	8,774	82.2

(注) 包括利益 29年3月期第1四半期 △2,267百万円(—%) 28年3月期第1四半期 10,419百万円(426.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	12.65	12.60
28年3月期第1四半期	22.26	22.18

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第1四半期	1,253,976	568,935	44.5
28年3月期	1,293,043	574,316	43.6

(参考) 自己資本 29年3月期第1四半期 558,280百万円 28年3月期 563,264百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	6.00	—	6.00	12.00
29年3月期	—	—	—	—	—
29年3月期(予想)	—	6.00	—	6.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	635,000	3.4	14,000	△3.4	14,000	△16.8	9,000	△17.2	22.98
通期	1,360,000	5.7	37,000	11.8	38,000	3.5	26,000	△1.9	66.38

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

29年3月期1Q	395,136,554株	28年3月期	395,118,414株
29年3月期1Q	3,465,548株	28年3月期	3,464,401株
29年3月期1Q	391,660,766株	28年3月期1Q	394,152,610株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
4. 補足情報	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（平成28年4月1日～平成28年6月30日）における我が国経済は、雇用環境においては堅調に推移しているものの、景気は足踏み状態が続いています。小売業においても、引き続き国内の個人消費が停滞しているのに加え、これまで好調であったインバウンド需要が円高や中国の輸入関税の引き上げ等により前年を下回るなど、非常に厳しい状況となっています。

このような状況のなか、当社グループは長年培ってきたノウハウ・リソースを結集することで「常に上質であたらしいライフスタイルを創造し、お客さまの生活の中のさまざまなシーンでお役に立つことを通じて、お客さま一人ひとりにとっての生涯にわたるマイデパートメントストアとなり、高収益で成長し続ける世界随一の小売サービス業グループ」となることをめざし、世界に認められるあたらしい価値の創出に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の連結業績は、売上高は294,646百万円（前年同四半期比4.9%減）、営業利益は6,062百万円（前年同四半期比47.7%減）、経常利益は7,339百万円（前年同四半期比43.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は4,954百万円（前年同四半期比43.5%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

①百貨店業

百貨店業におきましては、4月からグループ共通ポイントを導入、5月からはTポイントサービスを開始し、お客さまの利便性を高めるとともに、三越伊勢丹グループならではのあたらしい価値をご提案することに取り組んでまいりました。グループが一丸となって進めている仕入構造改革は、さらに一步踏み込んだ取り組みとして婦人靴のオリジナルブランドである「ナンバートゥエンティワン」のグループ内外への展開を拡大しています。

また、企業メッセージである「this is japan.」のキャンペーンとして本年より年4回に拡大した「JAPAN SENSES」では、春のテーマを「青の美」として同時期に開催される「瀬戸内国際芸術祭2016」とシンクロナイズしながら、さまざまなモノやカルチャーをご紹介しました。三越日本橋本店では、香川県に生まれ三越の包装紙のデザインを起こした猪熊弦一郎氏をクローズアップし、包装紙のデザイン「華ひらく」をモチーフとしたオリジナル商品の提案を行いました。夏のテーマは「朱の美」として“粋な”夏のファッション、ライフスタイルをご紹介しました。伊勢丹新宿本店では、“夏まつり”をテーマにファッションを通して日本を元気にする「モノ・コト」をかつてない規模でご紹介しました。

さらに、三越日本橋本店では「カルチャーリゾート百貨店」をコンセプトに、日本文化の発信拠点としてあたらしい百貨店をめざして取り組む中、5月には本館が重要文化財の指定を受けました。文化に浸って楽しむ店の完成に向け、建築家隈研吾氏にデザインを依頼し、2017年より順次リモデルをすすめてまいります。

グループ百貨店におきましては、昨年度に丸井今井札幌本店と札幌三越をリモデルオープンいたしました。4月には福岡三越内に空港型市中免税店である「FUKUOKA DUTY FREE TENJIN」がオープンしたのに加え、名古屋三越栄店においてもリモデルを予定しており、地方大都市を中心に営業基盤の強化を図ってまいります。

中小型店舗につきましては、当社グループの強みである編集力とチャネル開発力を活かし、お客さまとの接点拡大に向けて出店を進めています。ラグジュアリーコスメの編集ショップである「イセタンミラー」は首都圏を中心に13店舗、編集型小型店である「エムアイブラザ」は全国に29店舗を展開しています。また、中型のセレクトストアとして六本木、丸の内に加え、3月には名古屋に「イセタンハウス」をオープンしました。さらに今秋には、これまで羽田空港内のみの展開であった空港内小型店の4号店として「イセタン セントレア ストア」を中部国際空港にオープンいたします。

EC事業につきましては、基幹3店と連動した企画や展開商品の拡大によりお客さまの利便性向上に取り組むとともに、6月にはラグジュアリーオンラインストア“NOREN NOREN ISETAN MITSUKOSHI”をオープンし、さらなるEC事業の拡大を進めてまいります。

海外百貨店業につきましては、クアラルンプールとパリで日本の暮らしやこだわりを海外のお客さまへおとどけする新しいスペシャリティストア「The Japan Store」の今秋のオープンに向け準備を進めています。

なお、このセグメントにおける売上高は269,591百万円（前年同四半期比5.9%減）、営業利益は1,977百万円（前年同四半期比75.2%減）となりました。

②クレジット・金融・友の会業

クレジット・金融・友の会業につきましては、株式会社エムアイカードが、外部利用拡大に向けた各種キャンペーン

の展開、外部加盟店を拡大するとともに、6月からは福岡天神エリアの商業施設VIOROにて「VIOROカード」を発行、10月にも「野村不動産グループカスタマークラブゴールドカード」の発行を予定するなど提携カードの発行を進めています。また、4月からはカード特典をグループ共通ポイントに改定し、大手航空会社とのマイル交換を開始するなど、お客様の利便性向上に向けて取り組んでいます。

なお、このセグメントにおける売上高は9,824百万円（前年同四半期比3.9%増）、営業利益は2,679百万円（前年同四半期比12.0%増）となりました。

③小売・専門店業

小売・専門店業につきましては、株式会社三越伊勢丹フードサービスが、日本一の豊かな食のプレゼンターをめざして首都圏を中心に食品専門スーパーマーケットを展開しています。4月にはお客さまと対面接客することにより、「鮮度感」「ライブ感」「圧倒的な清潔感」を最大限演出する新しいスーパーマーケットスタイルを提案する店としてクイーンズ伊勢丹仙川店をリモデルオープンいたしました。

なお、このセグメントにおける売上高は13,363百万円（前年同四半期比1.0%増）、営業損失は495百万円（前年同四半期は営業損失375百万円）となりました。

④不動産業

不動産業につきましては、株式会社三越伊勢丹プロパティ・デザインが、オリンピック・パラリンピック開催予定の東京地区やインバウンド需要が見込まれる北海道・京阪地区において積極的に建装事業を拡大するとともに、新宿・池袋・原宿などでALTA館を展開し、リーシング事業を進めています。また株式会社三越伊勢丹不動産は、従来の不動産賃貸管理業において取扱物件を拡大するとともに、資本業務提携先である野村不動産株式会社と共同分譲事業の取り組みを推進しています。

なお、このセグメントにおける売上高は9,358百万円（前年同四半期比11.6%減）、営業利益は1,407百万円（前年同四半期比9.0%減）となりました。

⑤その他

その他の事業におきましては、「お客さまの生活の中のさまざまなシーンでお役に立つこと」の実現に向けて独自性の高い新規事業の開発を進めており、昨年度に設立した株式会社三越伊勢丹プラン・ドゥ・シー、株式会社三越伊勢丹トランジットにおいて、飲食・ブライダル事業の開始に向け取り組んでいます。また、1月に設立した投資会社である株式会社三越伊勢丹イノベーションズでは、eギフトサービスを展開するスタートアップ企業に出資を行いました。さらに4月にはTポイントを運営するカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社との合弁会社である株式会社三越伊勢丹Tマーケティングを設立し、新しい事業の創出に挑戦しています。

なお、このセグメントにおける売上高は17,908百万円（前年同四半期比17.5%増）、営業利益は419百万円（前年同四半期は営業損失152百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は1,253,976百万円となり、前連結会計年度末に比べ39,067百万円減少しました。これは主に、現金及び預金、並びに受取手形及び売掛金が減少したことなどによるものです。

負債合計では685,040百万円となり、前連結会計年度末から33,686百万円減少しました。これは主に、支払手形及び買掛金が減少したことなどによるものです。

また、純資産は568,935百万円となり、前連結会計年度末から5,380百万円減少しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が増加した一方で、その他有価証券評価差額金及び為替換算調整勘定が減少したことなどによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期の連結業績予想につきましては、平成28年5月11日公表の連結業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	67,971	36,887
受取手形及び売掛金	128,756	121,474
有価証券	5	149
商品及び製品	60,475	61,171
仕掛品	119	166
原材料及び貯蔵品	771	731
その他	51,535	56,864
貸倒引当金	△3,303	△3,312
流動資産合計	306,331	274,132
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	175,559	173,706
土地	532,074	531,903
その他(純額)	23,667	23,622
有形固定資産合計	731,302	729,232
無形固定資産		
ソフトウェア	21,958	23,082
その他	36,625	36,571
無形固定資産合計	58,583	59,653
投資その他の資産		
投資有価証券	114,569	108,882
その他	82,466	82,246
貸倒引当金	△280	△238
投資その他の資産合計	196,755	190,891
固定資産合計	986,641	979,777
繰延資産		
社債発行費	70	67
繰延資産合計	70	67
資産合計	1,293,043	1,253,976

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	119,255	105,066
短期借入金	58,871	25,097
コマーシャル・ペーパー	23,000	50,000
未払法人税等	6,047	2,494
商品券回収損引当金	26,514	26,102
引当金	18,516	11,083
その他	167,961	166,711
流動負債合計	420,167	386,555
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	74,000	75,000
繰延税金負債	142,507	141,896
退職給付に係る負債	42,122	42,203
引当金	40	40
持分法適用に伴う負債	3,972	4,086
その他	15,917	15,257
固定負債合計	298,559	298,484
負債合計	718,727	685,040
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,276	50,285
資本剰余金	323,407	322,656
利益剰余金	184,908	187,512
自己株式	△6,280	△6,281
株主資本合計	552,312	554,173
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,830	756
繰延ヘッジ損益	△0	△32
為替換算調整勘定	10,327	5,535
退職給付に係る調整累計額	△2,206	△2,151
その他の包括利益累計額合計	10,951	4,107
新株予約権	1,681	1,663
非支配株主持分	9,371	8,991
純資産合計	574,316	568,935
負債純資産合計	1,293,043	1,253,976

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	309,931	294,646
売上原価	222,237	206,689
売上総利益	87,694	87,957
販売費及び一般管理費	76,105	81,895
営業利益	11,588	6,062
営業外収益		
受取利息	201	179
受取配当金	375	409
持分法による投資利益	1,319	1,044
その他	505	1,006
営業外収益合計	2,402	2,640
営業外費用		
支払利息	289	257
固定資産除却損	262	368
その他	384	736
営業外費用合計	935	1,363
経常利益	13,055	7,339
特別利益		
投資有価証券売却益	47	—
特別利益合計	47	—
特別損失		
投資有価証券評価損	—	433
事業構造改善費用	150	—
特別損失合計	150	433
税金等調整前四半期純利益	12,952	6,905
法人税等	4,228	2,084
四半期純利益	8,723	4,820
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△51	△133
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,774	4,954

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
四半期純利益	8,723	4,820
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,888	△1,524
繰延ヘッジ損益	5	△34
為替換算調整勘定	△1,295	△1,521
退職給付に係る調整額	△6	54
持分法適用会社に対する持分相当額	1,103	△4,062
その他の包括利益合計	1,695	△7,087
四半期包括利益	10,419	△2,267
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	11,052	△1,890
非支配株主に係る四半期包括利益	△633	△376

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)3
	百貨店業	クレジット・金融・ 友の会業	小売・専 門店業	不動産業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	286,101	5,306	10,097	6,170	307,675	2,256	309,931	—	309,931
セグメント間の内部 売上高又は振替高	350	4,147	3,130	4,422	12,050	12,978	25,029	△25,029	—
計	286,451	9,453	13,228	10,592	319,725	15,235	334,960	△25,029	309,931
セグメント利益又は損失 (△)	7,983	2,392	△375	1,546	11,546	△152	11,393	194	11,588

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、製造・輸出入等・卸売業、物流業、人材サービス業、情報処理サービス業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額194百万円は、セグメント間未実現利益等であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 3
	百貨店業	クレジット・金融・ 友の会業	小売・専 門店業	不動産業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	269,314	5,811	10,362	5,552	291,040	3,606	294,646	—	294,646
セグメント間の内部 売上高又は振替高	277	4,013	3,001	3,806	11,098	14,302	25,400	△25,400	—
計	269,591	9,824	13,363	9,358	302,138	17,908	320,047	△25,400	294,646
セグメント利益又は損失 (△)	1,977	2,679	△495	1,407	5,568	419	5,987	74	6,062

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、製造・輸出入等・卸売業、物流業、人材サービス業、情報処理サービス業、旅行業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額74百万円は、セグメント間取引消去等であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

4. 補足情報

(1) 連結業績の概要

(単位：百万円)

項目	当第1四半期累計期間 (平成28年4月～6月)	前第1四半期累計期間 (平成27年4月～6月)	前年差	前年比
連結売上高	294,646	309,931	△ 15,284	95.1%
連結売上総利益	87,957	87,694	262	100.3%
連結販売費及び一般管理費	81,895	76,105	5,789	107.6%
連結営業利益	6,062	11,588	△ 5,526	52.3%
連結経常利益	7,339	13,055	△ 5,716	56.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,954	8,774	△ 3,820	56.5%

(2) 三越伊勢丹個別の業績の概要

①業績の概要

(単位：百万円)

項目	当第1四半期累計期間 (平成28年4月～6月)	前第1四半期累計期間 (平成27年4月～6月)	前年差	前年比
売上高	154,664	164,430	△ 9,766	94.1%
売上総利益	44,464	45,221	△ 756	98.3%
販売費及び一般管理費	43,570	39,441	4,128	110.5%
営業利益	4,279	9,016	△ 4,737	47.5%
経常利益	4,562	8,889	△ 4,327	51.3%
四半期純利益	3,143	6,363	△ 3,219	49.4%

②店別売上高

(単位：百万円)

店舗名	当第1四半期累計期間 (平成28年4月～6月)	前第1四半期累計期間 (平成27年4月～6月)	前年差	前年比
伊勢丹新宿本店	61,309	64,530	△ 3,220	95.0%
三越日本橋本店	39,680	41,432	△ 1,752	95.8%
三越銀座店	19,327	21,483	△ 2,156	90.0%
伊勢丹立川店	8,523	9,106	△ 583	93.6%
伊勢丹松戸店	4,399	4,683	△ 284	93.9%
伊勢丹浦和店	9,721	9,966	△ 244	97.5%
伊勢丹相模原店	4,987	5,578	△ 590	89.4%
伊勢丹府中店	3,822	4,530	△ 707	84.4%
三越千葉店	2,891	3,117	△ 225	92.8%
計	154,664	164,430	△ 9,766	94.1%

(3) 国内グループ百貨店の売上高の状況

(単位：百万円)

会社名	当第1四半期累計期間 (平成28年4月～6月)	前第1四半期累計期間 (平成27年4月～6月)	前年差	前年比
札幌丸井三越	13,974	14,249	△ 274	98.1%
函館丸井今井	1,836	1,896	△ 60	96.8%
仙台三越	7,652	8,198	△ 546	93.3%
名古屋三越	15,971	16,844	△ 873	94.8%
静岡伊勢丹	4,530	4,637	△ 106	97.7%
新潟三越伊勢丹	10,560	10,575	△ 14	99.9%
広島三越	3,556	3,606	△ 49	98.6%
高松三越	5,138	5,306	△ 167	96.8%
松山三越	3,331	3,496	△ 164	95.3%
岩田屋三越	25,646	26,713	△ 1,066	96.0%